

LingDy インターゼミナール 受講生募集案内

2021年1月18日

趣旨説明 新型コロナウイルス感染拡大のため、私たちはかつてない困難な環境で研究を遂行していかななくてはならなくなりました。大学の講義や学会はおおむねオンラインに移行し、直接対面で交流する機会は激減しました。またフィールド調査の目処を立てることがままならず、計画の大幅な変更を強いられています。大学の講義や学会、調査という機会は、単に知識を得るためだけの場ではなく、議論を交わし互いに知的な刺激を与え合う貴重な学術的交流の場であったことを多くの人が再認識していることでしょう。

こうした現状を踏まえ、学生同士の学術的交流を支援・促進することを目的としたインターゼミナールをオンラインで開催します。自身の研究について情報交換する機会やコロナ禍で直面している研究上の困難を共有する機会として活用してほしいと願っています。

日 時 2021年3月24日(水) 13:30~17:30

主な内容

- ・参加者によるライトニングトーク：豆論文紹介
 - ※ 豆論文については次頁を参照してください。
- ・ライトニングトークを受けた先輩研究者座談会
 - ※ 座談会の登壇者は下記を参照してください。
- ・参加者の交流会（ブレイクアウト・セッション）

場 所 ZOOM 会議室 ※ 会議室の URL は、参加者に開催日前日までに連絡します。

登壇者 木本幸憲（兵庫県立大学）
品川大輔、安達真弓、倉部慶太、青井隼人（AA 研）

応募資格 フィールド調査に基づく言語研究を専攻する大学院生（博士課程在籍中もしくは博士課程進学を目指す修士課程在籍中の学生）
※ 博士号取得者はご応募いただけません。

参加費 無料

定 員 10 名程度

申込先 下記 URL にアクセスして、専用フォームからお申し込みください。折り返し自動返信メールが届きますので、ご確認ください。
なお、右記 QR コードからでも同じページにアクセスできます。
<https://lingdy.aa-ken.jp/activities/training-ws/210324-flws/>



申込締切 2021年2月22日(月) 正午

問合せ先 「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築 (LingDy3)」事務局
info-lingdy[at]aacore.net ([at]を@に変えて送信してください)

主催 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究「多言語・多文化共生
に向けた循環型の言語研究体制の構築 (LingDy3)」

豆論文 執筆要領

参加者には前もって短い文章(豆論文と呼びます)を提出していただきます。みなさんから集めた豆論文は参加者限定で事前に公開します(3月中旬ごろを予定。なお公開方法は参加者に対して追ってご連絡します)。またインターゼミの冒頭では、ライトニングトークとして、この豆論文を基に3分程度の短い自己紹介をしていただきます。

豆論文は以下の3つの問いに回答する形で執筆してください。あえて文字数を厳しめに制限してあります。限られた文字数の中にできるだけ多くの情報を詰め込もうとするのではなく、どうしても伝えたいポイントに絞って、それが最大限伝わるよう工夫してみてください。学会の懇親会などで初対面の人に自己紹介をするような場面をイメージするといいかもしれません。

1. いま取り組んでいる研究テーマは何ですか？(300字)

修士論文もしくは博士論文のテーマを教えてください。どんな言語を対象としているか、どんな現象がとくに興味深いか、どんなアプローチで研究しているか、これまでにどんなことが分かったのか、どんな博論を目指しているか、などを書いてください。

2. 博士号取得後にはどんな研究をやってみたいですか？(120字)

博士論文を書き終えたらやってみたい研究を教えてください。博論のテーマの発展である必要は必ずしもありません。また具体的でなくても構いません。現時点で考えている計画や目標や希望を書いてください。

3. 研究活動において、人と違うことは何ですか？(120字)

周りの学生や研究者たちと自分を比べてみて、他の人が持っていないと感じる個性を教えてください。なおここでの「研究活動」はなるべく広く考えてください。調査・実験や論文執筆、学会発表だけでなく、たとえばトピック探し、学会出張、先行研究の読解・整理、読書会・勉強会、なども含みます。

4. 最後に、自分の研究を説明する短いキャッチコピー(タイトル)をつけてください。
(20字程度)

「〇〇語における複合名詞形成にともなう3種類の変調」のような論文や口頭発表に付けるタイトルではなく、ネット記事の見出しのようなものをイメージしてください。

投稿締切 2021年3月1日(月) 正午

提出先 専用フォームを通じて提出してください。※ URLは申込者に追って通知します。

注意事項 ※ 各トピックについて、それぞれ文字数制限があります（末尾に示してある数字がそれです）。必ず守るようにしてください。

※ 投稿締切までに豆論文の提出がない場合は、申し込みいただいている場合でも、参加をお断りさせていただく場合がございます。

※ 執筆にあたっては、以下のサンプルも参考にしてください。

サンプル

1. 南琉球宮古語多良間方言の音声学・音韻論を研究しています。宮古語は5つある琉球諸語の中でも、とくに音韻論が複雑で独特です。宮古語の中の代表的変種の1つである多良間方言を対象に、フィールド調査に基づきながら音声学的・音韻論的構造の諸側面を記述し、その過程で浮かび上がる理論的問題を考察しています。

これまでの研究で得られた最大の発見は、舌端母音の調音に関するものです。従来、当該の母音の調音については中舌派（中舌面が口蓋に近づく）と舌尖派（舌尖あるいは舌端が歯茎に近づく）で見解が二分されていました。しかし私の調査の結果、この母音は、舌端と奥舌面の二重調音をもつ母音であることがわかりました。【293字】

2. 北琉球語派の言語の調査・研究をしたいと考えています。北琉球語派は、これまで調査してきた南琉球語派とは音声学的・音韻論的構造がまったく異なっています。その最大の特徴が声門化子音です。この子音をめぐって、様々な論争が繰り広げられてきました。【118字】

3. Google社の「20%ルール」を参考に、専門分野とは違うことを勉強する時間を1日の中に設けるようにしています。いま興味を持って読み進めているのは山折哲雄『仏教とは何か』（中公新書）です。プレゼン手法や読書法をはじめとする勉強法に関する本もよく読みます。【120字】

4. 琉球諸語の音声学的・音韻論的多様性を理解したい【23字】

※ 豆論文の執筆に際して相談したいことや助言してほしいことがあれば、企画担当者までお気軽にご連絡ください。

企画担当者：青井隼人 haoi[at]aa.tufs.ac.jp ([at]を@に変えて送信してください)